

「びわ湖・まるエコ・DAY 2009」事業実施報告書

開催趣旨

滋賀県は、琵琶湖やそれを取り巻く山々を始めとする自然に恵まれ、自然との共生の中で、豊かな生活文化が育まれてきました。びわ湖は、市民の「環境へのこだわり」の原点であり、現在では、市民によるさまざまなエコ活動や地域再生につながるまちづくりが行われています。

こうした自然と人の絆を大切にした様々な活動について、多様な主体が出会い、それぞれの取組の魅力や工夫を発信し、出会いを通じて新たな取り組みが生まれるきっかけづくりにつなげる機会として、「びわ湖・まるエコ・DAY」を開催しました。

テーマ 「想いをつなぎ、そして未来へ」

今年度は、地域で活動しているさまざまな団体の想いをつなぎ、未来への橋渡しをテーマとし、自然と共生する豊かで持続可能な社会に向けて、滋賀の将来像を思い描きながら、今、私達になにができるか考えます。

開催日時

平成21年11月28日(土)～12月6日(日) 10時～16時
(11月30日(月)は休館日、最終日は15時まで)

会場

滋賀県立琵琶湖博物館(住所:草津市下物町1091、TEL:077-568-4811)

主催

びわ湖・まるエコ・DAY実行委員会
滋賀県、湖国まるごとエコ・ミュージアム推進会議、滋賀県立大学

後援(順不同)

滋賀県教育委員会、朝日新聞大津総局、毎日新聞大津支局、読売新聞大津支局、産経新聞大津支局、
中日新聞社、京都新聞滋賀本社、日本経済新聞社大津支局、共同通信社大津支局、
時事通信社大津支局、NHK大津放送局、KBS京都、びわ湖放送株式会社、株式会社エフエム滋賀

連携協力 生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会

参加団体数 85団体

来場者数 約2,000人

事業概要

県内各地域で、自然と人の絆を大切にした様々な活動に取り組む85団体が出展し、活動のパネル展示でそれぞれの活動の魅力を発信するとともに、未来予想絵図づくりワークショップを通じて各団体の活動への想いや思い描く滋賀の将来像を共有しました。

開催期間中は、日替わりでこどもエコクラブ活動交流会やまるエコタイム、地域づくり交流会、近江地域再生フォーラム、コットン体験などさまざまな交流イベントを開催するとともに、滋賀のことについて学びながら、楽しく展示会場を回っていただけるよう、まるエコクイズラリーを実施し、来場者との交流も深めました。

事業詳細

< 期間中毎日開催 >

未来予想絵図づくりワークショップ

日 時 : 開催期間中毎日

場 所 : 琵琶湖博物館アトリウム(F会場)

運 営 : 特定非営利活動法人五環生活

協 力 : 滋賀県立大学近藤研究室

琵琶湖博物館のアトリウムに広げた5m四方の大きな下絵に、開催期間中を通じて、出展団体がそれぞれ思い描いている未来の暮らしを描き込みました。描き込みをしてくださった出展団体の皆さんは、自分たちの取組へ思いを熱く語りながら、「たくさんの虫や鳥などの生き物がいる」「自然の中で子どもたちが生き物を観察したり遊んでいる」「太陽エネルギーで動く未来の船」「景観にとけこむ昔ながらの木造建築」「宿場町の町並みが保存されている」など、自然豊かな滋賀の未来をさまざまな面から描いてくださり、最終日のワークショップでも、足りないものなどを話し合いました。



また、開催期間中の様子は、未来予想絵図ブログ(<http://mirai09.shiga-saku.net/>)でも発信しました。

さまざまな活動のパネル展示

日 時 : 開催期間中毎日

場 所 : 会議室(A会場)、ホール(B会場)、セミナー室(C会場)、新空間(D会場)、アトリウム(F会場)

出展団体数: 85団体

県内のNPO、企業、施設、こどもエコクラブなど85団体が出展し、自然と人とのつながりを大切にするさまざまな取組をパネル展示で発表していただき、出展者同士や来場者との交流を深めました。



まるエコクイズラリー

日 時 :開催期間中毎

場 所 :各会場

参加者数:441人

会場内の5つのクイズポイントを回り、琵琶湖の自然や歴史などについて、楽しみながら学びを深めてもらいました。最終のクイズポイントでは、「私が描く しがの未来」を思い思いに書いてもらいました。

「私が描く しがの未来」

- ・昔のように川で遊んだり、虫を捕まえられる自然豊かなまち
 - ・森の木々などの自然エネルギーが上手に使われている
 - ・琵琶湖の水がきれいになって、外来魚がいなくなっている
 - ・20年後には琵琶湖の水質がコンピューターで管理されて、おいしい魚がいっぱいとれる
 - ・自然いっぱいの中でみんな幸せな笑顔でいる
 - ・琵琶湖を中心としたエコ活動で日本をリード
- etc.



<交流イベント>

淡海こどもエコクラブ活動交流会

同時開催事業

日 時 : 11月28日(土) 10:00~16:00

場 所 : ホール(B会場)

主 催 : 滋賀県環境学習支援センター

コーディネーター: 井阪尚司さん(NPO法人蒲生野考現倶楽部総合プロデューサー)

選考委員: 延藤安弘さん(愛知産業大学大学院造形学研究科教授)

牧野厚史さん(滋賀県立琵琶湖博物館専門学芸員)

辻村琴美さん(滋賀県立大学近江環人・新江州株式会社MOH 通信編集長)

岩根浩士さん(滋賀県総合教育センター研修指導主事)

宮川正和さん(滋賀県琵琶湖環境部環境政策課長)

参加クラブ数: 15クラブ(うち展示のみ2クラブ)

参加者数: 130人

県内のこどもエコクラブの子どもたちが、普段、行っている環境に関する様々な活動の内容を発表し、交流を深めました。また、5人の選考委員により決定した淡海こどもエコクラブ大賞・奨励賞を受賞したクラブには、知事から賞状が手渡されました。



【淡海子どもエコクラブ大賞】

- ・山内エコクラブ(甲賀市)

【淡海子どもエコクラブ奨励賞】(50音順)

- ・アイキッズ ~エコアイデアキッズびわ湖~(草津市)
- ・愛東北小学校エコクラブ(東近江市)
- ・伯母Q五郎 ~伯母川研究子どもエコクラブ~(草津市)
- ・TANAKAMI ども環境クラブ ふくじゅ土曜学校 クリスタル・エコ(大津市)
- ・水のかけ橋エコクラブ(日野町)

まるエコタイム

日時 : 11月28日(土)13:00~15:30

場所 : ホール(B会場)、セミナー室(C会場)、各会場

運営 : 湖国まるごとエコ・ミュージアム推進会議

コーディネーター: 「まるエコたたえ隊」の皆さん

井阪 尚司さん(NPO法人蒲生野考現倶楽部総合プロデューサー)

大平 正道さん(しがらき狸学会会長)

津屋 結唱子さん(しが文化芸術学習支援センタートータルコーディネーター)

菱川 貞義さん(275(つなご)研究所所長)

吉見 精二さん((有)地域観光プロデュースセンター代表)

コーディネーターの皆さんに「まるエコたたえ隊」を結成していただき、まるエコタイムのコーディネートをしていただきました。

参加者数: 60人

セミナー室(C会場)では、「まるエコたたえ隊」のコーディネートにより参加者全員が『まるエコガイド』によるチェック(自らの活動に当てはまることにシールを貼付)をするとともに、参加者から取組内容や思いを発表してもらい、意見交換を行いました。『まるエコガイド』にシールを貼る場面では、「これはできているよね」、「ひとつの項目に2つ貼ってもいいのかな〜」と口に出しながら貼る参加者もいて、和やかな雰囲気の中で交流が深まりました。

その後各会場に分かれて、出展者と来場者、「まるエコたたえ隊」がパネル展示を見ながら互いに言葉を交わし合い、交流を深めました。



「農村の暮らし」展示見学会

同時開催事業

日 時 : 11月28日(土)14:00 ~ 15:00

場 所 : アトリウム集合

主 催 : 琵琶湖博物館

参加者数: 10人

昭和39年当時の暮らしを再現した湖北・富江家「農村の暮らし」展示を博物館学芸員の案内により見学し、つい40～50年前まで普通に行われていたごみが出ない暮らしを学ぶことで、日頃の生活を振り返るきっかけとしていただきました。



体験プログラム「コットン体験」

日 時 : 11月29日(日)12:00 ~ 15:00

場 所 : 生活実験工房(E会場)

運 営 : おうみこっとな夢つむぎ(おうみ未来塾10期生)

体験指導: おうみこっとな夢つむぎ、高島綿 sクラブ

参加者数: 40人

綿くり機、綿打ち弓、糸車をを使用して伝統的な糸つむぎを実演し、ご家族連れを中心とする来場者の皆さんに、体験していただきました。コットンボールから種を取り出す「綿くり」、綿の繊維をほぐして柔らかくする「綿打ち」、糸車に巻き付けて糸を作り出す「糸つむぎ」まで、綿の実から糸を作り出す一連の作業は子どもたちにとっても初めての楽しい体験で、参加者が途切れることなくにぎわいました。



2009 トークライブ café「大工棟梁宮内寿和さん映像上映会 & お話・交流会」

同時開催事業

日 時 : 12月1日(火) 11:30~15:30

場 所 : 生活実験工房 (E会場)

主 催 : こだわり滋賀ネットワークトークライブ café プロジェクト こだしが舎

スペシャルゲストトーク : 宮内建築 大工棟梁宮内寿和さん「大工が語る山の問題」

みんなでフリートークゲスト : 森 真理さん(滋賀県農業経営課農産ブランド推進室)

本江 宗明さん(ベジタブルロード事務局長)

蔭山 歩さん(成安造形大学 非常勤講師)

参加者数 : 35人

地産地消をテーマに、TV番組「情熱大陸」に出演された宮内寿和さんをゲストに迎え、大工の視点から山の問題と県産木材を用いた家づくりについて伺い、地元の農産物を使いおどさんでつくったお昼ごはんをいただきながら、林業、食や農業にも共通する課題について意見交換を行いました。



住まいの小学校「資源が循環する住まいと暮らしの体験館(仮)構想」

同時開催事業

日 時 : 12月2日(水) 13:30~16:00

場 所 : 会議室 (A会場)

主 催 : 木考塾(木造在来工法住宅を考える会)

琵琶湖博物館はしかけグループ「近江昔くらし倶楽部」

参加者数 : 7人

「農村のくらし」展示を持つ琵琶湖博物館の敷地内に、伝統的な木造軸組工法を使った現代日本型のエコロジー住宅を建てようという構想があります。木考塾の代表、滋賀の教師塾の学生、琵琶湖博物館はしかけ会員、びわ湖・まるエコ・DAY参加者などさまざまな立場の者が集い、現代日本の住まいと暮らしについて自由に学びあい意見交換しました。



地域づくり交流会「懐かしい未来の地域づくり～中山道とともに～」

同時開催事業

日時：12月3日(木) 13:30～16:00

場所：セミナー室(C会場)

主催：自治振興課

話題提供：

近江中山道について
草津宿の今昔

中山道近江路連合会 会長 川端美臣さん
草津市物産協会

自然に抱かれた街道のまち・渋川

中山道宿場全国協議会 理事 山本勘六さん
～「渋川・風景の記憶絵」より～
灯心草舎・畳屋さん

まちづくり会社による活性化
県立大学近江楽座「守山宿・だるまそばプロジェクト」

「風景の記憶絵」制作プロジェクト 中村明雄さん
株式会社みらいもりやま21 井上純作さん
県立大学地域づくり教育研究センター 近藤紀章さん
歴史街道推進協議会 課長 稲永明子さん

参加者数：40人

近江の中山道の歴史について、中山道近江路連合会の川端美臣さんにお話しいただいた後、草津宿におけるふるさと絵図(風景の記憶絵)作成の取組や守山宿におけるまちづくり会社の取組など、中山道を活かした地域づくりについて、話題提供いただきました。その後、参加者も交え、中山道ならではの魅力について意見交換を行いました。中山道の魅力を語り始めたら終わらない方々ばかりで、大いに盛り上がりました。



環境・ほっと・カフェ(環境首都編)「環境先進都市に学ぶ持続可能な地域づくり」

日時：12月4日(金) 13:00～16:00

場所：ホール(B会場)

運営：滋賀県環境学習支援センター

基調講演：「環境首都コンテスト 地域から日本を変える七つの提案」

枚本育生さん(環境首都コンテスト全国ネットワーク世話人、NPO法人 環境市民代表理事)

パネルディスカッション

パネリスト：飯田市地球温暖化対策課 課長 小林敏昭さん
新城市環境課 主査 西村仁志さん
琵琶湖環境科学研究センター 研究員 宮永健太郎さん

コーディネータ：枚本育生さん

参加者数：44人

8年にわたり日本の「環境首都コンテスト」を実施してきたNPO法人環境市民の枚本育生さんから、全国から集まった地域発の先進事例を数多く紹介いただき、持続可能な地域社会のイメージを示していただいた後、コンテスト参加自治体により環境首都実現のための現場の取組が紹介されました。ゲストと会場の参加者がやりとりしながら、滋賀での環境首都実現に向けて、環境・社会・経済が調和したまちづくりをみんなで考えました。



地域づくり交流会「これからの新しいコミュニティの活動～コミュニティ・ビジネスのすすめ～」 同時開催事業

日時：12月5日(土) 10:00～12:45

場所：生活実験工房(E会場)

主催：自治振興課

事例紹介：

コミュニティ・カフェの現場から

特定非営利活動法人びいめ～る企画室 代表 小川泰江さん

目川田楽によるまちづくり

栗東市岡自治会 前自治会長 山本喜三雄さん

綿づくりから「地域振興」「福祉」「教育」へ

おうみこっとな夢つむぎ 芝浩市さん

参加者数：30人

県内の先駆者であるびいめ～る企画室の小川さん、自治会を挙げて名物“目川田楽”を復元した栗東市岡自治会の山本さん、綿栽培を起点に地域協業によるビジネスモデル構築を目指すおうみこっとな夢つむぎの芝さんに取り組む内容や今後の展開などを発表いただきました。その後、めがわ田楽保存会の田楽と菜飯、コミュニティカフェ“Be-café”のパンとコーヒーを片手に参加者全員で車座になって意見交換を行いました。コミュニティビジネスを始めたいという参加者も現れ、大いに盛り上がりました。



近江地域再生フォーラム「地域資源のデザインと地域再生」

同時開催事業

日時 : 12月5日(土) 13:00~16:00

場所 : ホール(B会場)

主催 : 滋賀県立大学

講演 : 「地域資源のデザインと地域再生」

松場登美さん(株式会社石見銀山生活文化研究所取締役所長)

対談 : 松場登美さん(株式会社石見銀山生活文化研究所取締役所長)

嘉田由紀子(滋賀県知事)

進行 上田洋平(滋賀県立大学近江環人地域再生学座 研究員)

参加者数 : 120人

「『We are here』人々が今いる場所に誇りを持って生きることの素晴らしさや喜びを共感することが必要」と松場登美さんから講演いただいた後、嘉田知事を交えて「ここでなりわいを生む」というテーマで会場を交えた意見交換を行いました。フォーラム後の交流会(in生活体験工房)では、40人程の参加者により地域再生について大いに盛り上がり終了しました。



内藤正明氏講演会「滋賀をモデルに持続可能な社会を描く」

日時 : 12月6日(日) 13:00~14:00

場所 : ホール(B会場)

運営 : NPO法人五環生活、琵琶湖環境科学研究センター

講師 : 内藤正明さん(琵琶湖環境科学研究センター センター長)

参加者数 : 60人

琵琶湖環境科学研究センター内藤正明センター長から、2030年を目標にした「自然と共生する持続可能な滋賀の将来像」やその実現のための道筋についてお話をいただき、琵琶湖をメインストリートとして活用する将来の滋賀の姿や、地域産業の活性化などについて会場との意見交換を行いました。



未来予想絵図エピソード「未来予想絵図を囲んで語るワークショップ」

日 時 : 12月6日(日)14:00~15:00

場 所 : アトリウム(F会場)

運 営 : NPO法人五環生活

コーディネーター : 近藤 隆二郎さん(NPO法人五環生活 代表理事)

中村 友子さん(滋賀県立大学環境計画学部3回生)

コメンテーター : 内藤正明さん(琵琶湖環境科学研究センター センター長)

参加者数: 45人

参加して下さったみなで未来予想絵図を取り囲み、担当スタッフが参加団体の描き込みを紹介しました。その後、「湖岸にもっとヨシが必要」「みんなが買い物できる商店街」「湖岸に水産物の市場」「伏流水を生かした生活」「お墓はどうなっているのか」など、みんなで絵図に足りないものやもっとこうしたらいいのではないか、という意見を交換し合い、未来への想いを共有し合いました。



最後にみんなで記念撮影をして、びわ湖・まるエコ・DAY2009のフィナーレとなりました。



実施体制

<びわ湖・まるエコ・DAY実行委員会構成団体>

- ・ 滋賀県企画調整課
- ・ 滋賀県自治振興課
- ・ 滋賀県環境政策課（環境学習支援センター）
- ・ 滋賀県立琵琶湖博物館
- ・ 滋賀県立大学
- ・ NPO法人五環生活

<協力団体>

- ・ おうみこっとな夢つむぎ（おうみ未来塾10期生）
- ・ トークライブcaféプロジェクトこだしが舎
- ・ 琵琶湖環境科学研究センター

広報の実施

- ・ チラシの作成、配布（市町役場、施設、NPO、地域づくり団体等）1万枚
- ・ 県の広報媒体による広報（広報誌プラスワン、ホームページ、ラジオ）
- ・ 関係団体の広報媒体（ホームページ、メールマガジン等）
- ・ 県政記者クラブでのプレスリリース
- ・ 地元テレビ局やラジオ局、新聞社等への後援依頼

参加者の声

<出展団体アンケートより>

- ・ いろいろな団体と知り合えるととてもよいきっかけとなった。
- ・ 他のブースを回っていろいろな情報を得たり、交流できてよかった。
- ・ 取組を発信するよい機会となった。
- ・ 初日は活動紹介の場もあり、今後の活動の励みになった。
- ・ 未来を絵に表すことで、改めて活動の方向性を考えるきっかけになったと思う。
- ・ 未来予想絵図はみなさんの琵琶湖や昔からの伝統を大切にされている思いが描かれていた。私たちもこれから、みんなで大切にしている滋賀県のことをいろいろな世代の人に伝えていきたい。

<来場者アンケートより>

- ・ たくさんの団体が参加し、一斉に展示されることによって、意識の向上につながると思う。
- ・ 親と子でECOについて考えるよい思い出ができた。
- ・ いろんな団体がいろんな活動をされていることに感心した。これからも続けていってほしい。
- ・ クイズラリーで滋賀県のことがよくわかった。
- ・ 大人、子ども問わず、たくさんの方が琵琶湖に関心している姿に感心した。私たちも水、自然にもっと関心を持って、日々の暮らしを変えていきたい。
- ・ びわ湖の未来のために、いろいろと取り組んで、もっともっとすてきな湖になってほしい。

成果

- ・ 参加団体同士がそれぞれの活動の魅力を発信し、互いに交流することで、今後の活動意欲の向上と活動の輪を広げるきっかけづくりにつながりました。特に、未来予想絵図づくりを通じて、活動への思いや目指すところを改めて考えていただき、表現してもらうことで、未来への想いを参加団体同士が共有することができました。
- ・ 琵琶湖博物館の来館者を含む来場者など多くの人に、県内の団体の活動を知ってもらい、新たに活動や行動を始めるきっかけとなるような気づきを提供しました。
- ・ また、関係団体が協力し、さまざまな交流イベントを同時開催したことで、単独でイベントを実施するよりも参加者の幅が広がり、交流の輪が広がりました。